

令和 2 年度政策提言

【提言事項】

1 提言

「つながりを継続し、生み出す高齢者施策～住み慣れた地域で暮らし続けるために～」

2 説明

瀬戸市は各連区住民や市民団体等による自発的な地域活動が展開されてきた歴史を持ち、これまで地域の人的資産・社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）に富んだ街であった。しかし、本市においても、地域活動を担ってきた世代が高齢化し、様々な課題が浮かび上がっている。それらは、地域活動の担い手不足、高齢者の生活上の移動手段確保、地域での居場所づくりの支援である。これらの問題は相互に関連しており、全てに共通するテーマは、「地域のつながり」である。

更に現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの高齢者の方々がこれまで以上に外出を控え、自宅で長い時間を過ごすようになると想定される。こうした状況が続くことで、地域とのつながりが途絶え、孤立してしまうことが懸念される。孤立を防ぎ、地域とのつながりを途絶えさせないためにも、新しい生活様式に合わせたつながりのあり方も検討する必要がある。本市の地域のつながりを維持し持続させるためには、上記の課題を市民・行政が共有し、高齢者の市民生活上の不便さを解消することで暮らしの安心を担保すべきと考える。地域住民の支え合いを支援するために、地域の人的・物的資産（ストック）の共有と活用、孤立を防ぎ、地域活動への参加を支える移動手段の確保、福祉に関わる情報や困りごとの相談に必要な情報が入手しやすいネットワークづくりに行政の積極的な関与が必要である。

来年度から始まる第 8 期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画を見据え、新しい生活様式の下でも住み慣れた地域で暮らし続けるためのつながりを継続し、生み出す高齢者施策に取り組むことを提言する。

政策提言をうけて

○第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画

「つながりを継続し、生み出す高齢者施策～住み慣れた地域で暮らし続けるために～」という提言をもとに、計画の基本目標の一つとして「尊厳をもって豊かに暮らせるよう“つながり”を維持し地域で支えあえる社会の実現」を設定した。

① 新しい生活様式に合わせたつながりのあり方

昨年度からの協議体でも検討しているところであるが、実際には感染予防に配慮した取り組みまでにしか至っていない。ウィズコロナの中で、どのように地域のつながりを生み出していくのか引き続き検討を進めていきたい。

② 地域活動の担い手不足

本市では、令和2年10月より大人の本気ダンスプロジェクトを開始した。本気ダンスプロジェクトでは、講座を受けた人に「伝道師」として、市内各地でダンスの普及活動をしていただいている。

また、認知症ステップアップ研修を受けた方を「チームオレンジ」として、認知症の人やその家族の個別ニーズとマッチングさせる取り組みをしている。また、「チームオレンジ」の活動として3つのプロジェクトを始動させており、地域の担い手としての役割も担っていただいている。

③ 高齢者の生活上の移動手段の確保、地域活動への参加を支える移動手段の確保

本市では、移動支援事業の目的を「フレイル予防のための外出機会の創出」としている。買い物やイベント等を開催することで参加者が地域とのつながりを持つきっかけをつくる役割を担っている。

④ 地域での居場所づくりの支援

半期に一回配布している「アクティブ・ライフのご案内」では居場所づくりの参考にできるよう、居場所を担っている高齢者へのインタビューを掲載するなどの工夫をしている。

⑤ 福祉に関わる情報や困りごとの相談に必要な情報が入手しやすいネットワークづくり

高齢者の困りごとの相談の多くは地域包括支援センターが窓口となるため、役割がますます重要になる地域包括支援センターの活動支援の強化について検討しているところである。